

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2021-100501

(P2021-100501A)

(43) 公開日 令和3年7月8日(2021.7.8)

(51) Int.Cl.  
A47C 16/02 (2006.01)

F I  
A47C 16/02

テーマコード (参考)

審査請求 有 請求項の数 5 O L (全 12 頁)

(21) 出願番号 特願2019-232916 (P2019-232916)  
(22) 出願日 令和1年12月24日 (2019.12.24)

(71) 出願人 000005935  
美津濃株式会社  
大阪府大阪市中央区北浜4丁目1番23号  
(74) 代理人 110001195  
特許業務法人深見特許事務所  
(72) 発明者 櫻田 未来  
大阪府大阪市住之江区南港北1丁目12番  
35号 美津濃株式会社内  
(72) 発明者 川端 洋明  
大阪府大阪市住之江区南港北1丁目12番  
35号 美津濃株式会社内  
(72) 発明者 浅野 麻美  
大阪府大阪市住之江区南港北1丁目12番  
35号 美津濃株式会社内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 オットマン

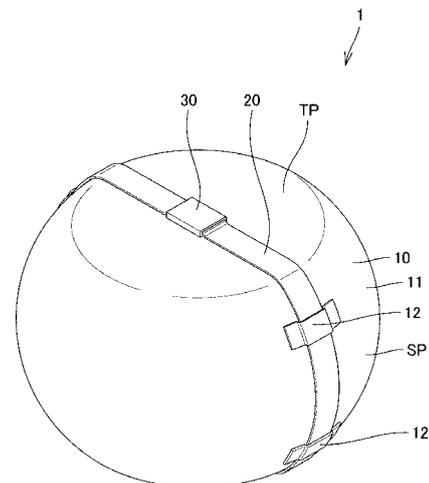
(57) 【要約】

【課題】 浮き指を改善することができるオットマンを提供する。

【解決手段】 オットマン1は、本体部10と、ベルト部20とを備えている。ベルト部20は、本体部10に取り付けられている。本体部10は、天面部TPを含んでいる。ベルト部20は、天面部TPに配置されている。

【選択図】 図1

図1



**【特許請求の範囲】****【請求項 1】**

本体部と、  
前記本体部に取り付けられたベルト部とを備え、  
前記本体部は、天面部を含み、  
前記ベルト部は、前記天面部に配置されている、オットマン。

**【請求項 2】**

前記ベルト部に取り付けられたリング部をさらに備え、  
前記ベルト部は、前記リング部に挿入されており、  
前記リング部は、前記ベルト部に沿って移動可能に構成されている、請求項 1 に記載の  
オットマン。 10

**【請求項 3】**

前記本体部は、側面部を含み、  
前記ベルト部は、前記側面部に配置されており、弾性部材により構成されており、かつ  
前記ベルト部と前記側面部との間の間隔を伸縮可能に構成されている、請求項 1 または 2  
に記載のオットマン。

**【請求項 4】**

上記天面部は、平面状に構成されている、請求項 1 ~ 3 のいずれか 1 項に記載のオット  
マン。

**【請求項 5】**

前記ベルト部は、前記本体部に着脱可能に取り付けられている、請求項 1 ~ 4 のいずれ  
か 1 項に記載のオットマン。 20

**【発明の詳細な説明】****【技術分野】****【0001】**

本発明は、オットマンに関するものである。

**【背景技術】****【0002】**

従来、椅子またはソファなどの前方に置かれ、使用者の足を載せるオットマンが用いら  
れている。足載せ台としてのオットマンは、たとえば、特開 2010 - 57853 号公報 30  
(特許文献 1) に記載されている。

**【先行技術文献】****【特許文献】****【0003】**

**【特許文献 1】** 特開 2010 - 57853 号公報

**【発明の概要】****【発明が解決しようとする課題】****【0004】**

靴を履くことにより、立ったり歩いたりする際に地面から足指が浮いている状態となる  
浮き指が問題となっている。上記公報に記載されたオットマンでは、浮き指を改善するこ  
とは想定されていない。 40

**【0005】**

本発明は、上記課題に鑑みてなされたものであり、その目的は、浮き指を改善すること  
ができるオットマンを提供することである。

**【課題を解決するための手段】****【0006】**

本発明のオットマンは、本体部と、ベルト部とを備えている。ベルト部は、本体部に取り  
付けられている。本体部は、天面部を含んでいる。ベルト部は、天面部に配置されてい  
る。

**【発明の効果】**

## 【 0 0 0 7 】

本発明のオットマンによれば、ベルト部は、天面部に配置されている。このため、使用者の足が本体部の天面部に載せられた状態で、使用者が足指でベルト部を掴むことにより、足指の筋肉を鍛えることができる。これにより、浮き指を改善することができる。

## 【 図面の簡単な説明 】

## 【 0 0 0 8 】

【 図 1 】本発明の実施の形態に係るオットマンの天面部側から見た構成を概略的に示す斜視図である。

【 図 2 】本発明の実施の形態に係るオットマンの底面部側から見た構成を概略的に示す斜視図である。

【 図 3 】本発明の実施の形態に係るオットマンの構成を概略的に示す正面図である。

【 図 4 】本発明の実施の形態に係るオットマンの構成を概略的に示す側面図である。

【 図 5 】本発明の実施の形態に係るオットマンの構成を概略的に示す平面図である。

【 図 6 】本発明の実施の形態に係るオットマンの構成を概略的に示す底面図である。

【 図 7 】図 5 の V I I - V I I 線に沿う断面図である。

【 図 8 】本発明の実施の形態に係るオットマンのベルト部を使用者が足指で掴んだ状態を概略的に示す平面図である。

【 図 9 】本発明の実施の形態に係るオットマンのベルト部を足指が離れた状態を概略的に示す平面図である。

【 図 1 0 】本発明の実施の形態に係るオットマンのリング部を使用者が足指で掴んだ状態を概略的に示す平面図である。

【 図 1 1 】本発明の実施の形態に係るオットマンのリング部を使用者が足指で掴んでスライドさせる状態を概略的に示す平面図である。

【 図 1 2 】本発明の実施の形態に係るオットマンの本体部の側面部とベルト部との間に足が通された状態を概略的に示す斜視図である。

【 図 1 3 】本発明の実施の形態に係るオットマンの本体部の側面部とベルト部との間に通された足が広げられた状態を概略的に示す斜視図である。

## 【 発明を実施するための形態 】

## 【 0 0 0 9 】

以下、図面を参照して本発明の実施の形態を説明する。なお、特に言及しない限り、以下の図面において同一または対応する部分には同一の参照符号を付し、その説明を繰り返さない。

## 【 0 0 1 0 】

図 1 ~ 図 7 を参照して、本実施の形態に係るオットマン 1 の構成について説明する。図 1 は、本実施の形態に係るオットマン 1 の正面部、平面部、右側面部を示している。図 2 は、本実施の形態に係るオットマン 1 の背面部、底面部、左側面部を示している。

## 【 0 0 1 1 】

図 1 および図 2 に示されるように、本実施の形態に係るオットマン 1 は、椅子またはソファなどの前方に置かれ、使用者の足を載せるように構成されている。オットマン 1 は、足載せ台である。本実施の形態に係るオットマン 1 は、本体部 1 0 と、ベルト部 2 0 と、リング部 3 0 とを備えている。

## 【 0 0 1 2 】

本体部 1 0 は、略球台状に構成されている。本体部 1 0 は、天面部 T P と、底面部 B P と、側面部 S P とを含んでいる。以下では、適宜、図 1 に示されるように、天面部 T P が上側に位置し、底面部 B P が下側に位置した状態を基準にして、上下方向が規定される。

## 【 0 0 1 3 】

本体部 1 0 は、外装部 1 1 と、ベルト通し部 1 2 とを含んでいる。外装部 1 1 にベルト通し部 1 2 が取り付けられている。

## 【 0 0 1 4 】

本実施の形態では、4つのベルト通し部 1 2 が側面部 S P に取り付けられている。4つ

10

20

30

40

50

のベルト通し部 12 は、本体部 10 の平面視での径方向に天面部 TP を挟んで 2 つずつ配置されている。本体部 10 の平面視での径方向に天面部 TP を挟んで 2 つずつ配置された一方側および他方側の 2 つのベルト通し部 12 のそれぞれは、上下方向において側面部 SP の天面部 TP および底面部 BP の間の中央より天面部 TP 側および底面部 BP 側に 1 つずつ配置されている。

#### 【0015】

ベルト通し部 12 は略長形状に構成されている。ベルト通し部 12 は、ベルト通し部 12 の長手方向において、両端に配置された両端部と、両端部に挟まれた中央部とを含んでいる。ベルト通し部 12 の両端部は外装部 11 に固定されている。具体的には、ベルト通し部 12 の両端部は、外装部 11 に縫い付けられている。ベルト通し部 12 の中央部と外装部 11 の表面との間に隙間が設けられている。ベルト通し部 12 の中央部は、外装部 11 に固定されていない。外装部 11 とベルト通し部 12 の中央部との間の隙間にベルト部 20 が挿通されている。

10

#### 【0016】

ベルト部 20 は、本体部 10 に取り付けられている。ベルト部 20 は、帯状に構成されている。ベルト部 20 の厚みは、たとえば 1 mm 以上 10 mm 以下である。ベルト部 20 は、天面部 TP に配置されている。本実施の形態では、ベルト部 20 は、側面部 SP に配置されている。本実施の形態では、ベルト部 20 は、天面部 TP から側面部 SP の一方側を通して底面部 BP に至り、側面部 SP の他方側を通して天面部 TP に至るように、本体部 10 の全周にわたって配置されている。ベルト部 20 は全周でなくても良く、底面部 BP を除く天面部 TP、側面部 SP の両側に通されていれば、全周と同じ機能を発揮することができる。その場合、ベルト部 20 は本体部 10 に縫製または接着で固定することが好ましい。

20

#### 【0017】

本実施の形態では、ベルト部 20 は、弾性部材により構成されている。ベルト部 20 は、ベルト部 20 と側面部 SP との間の間隔を伸縮可能に構成されている。ベルト部 20 は、本体部 10 の側面部 SP に沿って延在している。ベルト部 20 は、本体部 10 の側面部 SP に固定されていない。

#### 【0018】

ベルト部 20 の材料は、たとえばゴムである。また、ベルト部 20 の材料は、たとえばポリエステルおよびラテックスでもよい。弾性率は 0.5 MPa 以上 100 MPa 以下であれば良く、好ましくは 30 MPa 以上 90 MPa 以下である。

30

#### 【0019】

本実施の形態では、ベルト部 20 は、本体部 10 に着脱可能に取り付けられている。ベルト部 20 の長手方向において、ベルト部 20 の一方端部（第 1 端部）21 はベルト部 20 の他方端部（第 2 端部）22 側の部分に重なっており、ベルト部 20 の他方端部（第 2 端部）22 はベルト部 20 の一方端部（第 1 端部）21 側の部分に重なっている。ベルト部 20 の一方端部（第 1 端部）21 側の部分および他方端部（第 2 端部）22 側の部分に面ファスナー 23 が設けられている。面ファスナー 23 を着脱することによりベルト部 20 は本体部 10 に着脱可能となる。

40

#### 【0020】

リング部 30 は、ベルト部 20 に取り付けられている。リング部 30 は、環状に構成されている。ベルト部 20 は、リング部 30 に挿入されている。具体的には、ベルト部 20 は、リング部 30 に囲まれた空間に挿入されている。リング部 30 は、ベルト部 20 に沿って移動可能に構成されている。具体的には、リング部 30 は、ベルト部 20 の長手方向に沿って移動可能に構成されている。また、リング部 30 は、ベルト部 20 に接した状態で移動可能に構成されている。

#### 【0021】

図 3 および図 4 に示されるように、天面部 TP は、本体部 10 の上面を含んでいる。天面部 TP は、平面状に構成されている。天面部 TP は、足指運動がしやすいように柔らか

50

くなっている。底面部 B P は、本体部 1 0 の下面を含んでいる。底面部 B P は、平面状に構成されている。天面部 T P および底面部 B P の間に側面部 S P が配置されている。天面部 T P と底面部 B P とは側面部 S P を挟んで向かい合っている。側面部 S P は、本体部 1 0 の径方向に天面部 T P および底面部 B P から外方に張り出している。側面部 S P は、上下方向において天面部 T P および底面部 B P の間の中央で最も外方に張り出している。側面部 S P は、本体部 1 0 の平面視での周方向に均等に天面部 T P および底面部 B P から外方に張り出している。

#### 【 0 0 2 2 】

図 5 に示されるように、本体部 1 0 の天面部 T P は、平面視において略円形状に構成されている。本体部 1 0 の側面部 S P は、平面視において略円環状に構成されている。ベルト部 2 0 は、天面部 T P 上において本体部 1 0 の平面視で好ましくは中心付近を通り、径方向に直線的に延在している。リング部 3 0 は、ベルト部 2 0 に沿って本体部 1 0 の平面視での径方向に直線的に移動可能に構成されている。

10

#### 【 0 0 2 3 】

図 6 に示されるように、本体部 1 0 の底面部 B P は、平面視において略円形状に構成されている。ベルト部 2 0 の一方端部（第 1 端部）2 1 側の部分および他方端部（第 2 端部）2 2 側の部分が重ねられた状態において、ベルト部 2 0 の一方端部（第 1 端部）2 1 とベルト部 2 0 の他方端部（第 2 端部）2 2 との間に面ファスナー 2 3 が設けられている。面ファスナー 2 3 を着脱することによりベルト部 2 0 を本体部 1 0 に着脱することができる。ベルト部 2 0 を本体部 1 0 から取り外すことにより、ベルト部 2 0 を洗濯することができる。また、面ファスナー 2 3 を着脱することにより、ベルト部 2 0 の長さを調整することができる。

20

#### 【 0 0 2 4 】

図 7 に示されるように、本体部 1 0 は、外装部 1 1 の内側に配置された内装部 1 3 と、ウレタンチップ 1 4 と、複数のマイクロビーズ 1 5 とを含んでいる。内装部 1 3 は、外装部 1 1 に覆われている。内装部 1 3 の内側にウレタンチップ 1 4 および複数のマイクロビーズ 1 5 が収容されている。ウレタンチップ 1 4 は、円柱形状に構成されている。ウレタンチップ 1 4 は弾性を有している。ウレタンチップ 1 4 は、内装部 1 3 の内側の上端と下端とにわたって延在している。ウレタンチップ 1 4 は、内装部 1 3 の内側の上端と下端とに接している。複数のマイクロビーズ 1 5 は、ウレタンチップ 1 4 と内装部 1 3 の内面との間に充填されている。複数のマイクロビーズ 1 5 の材料は、たとえばポリスチレンである。外装部 1 1 の材料は、たとえばポリエステルである。

30

#### 【 0 0 2 5 】

図 5 ~ 図 7 に示されるように、ウレタンチップ 1 4 は、平面視において、本体部 1 0 の中央に配置されている。複数のマイクロビーズ 1 5 は、本体部 1 0 の平面視での周方向にウレタンチップ 1 4 を取り囲むように配置されている。内装部 1 3 は、ウレタンチップ 1 4 の周囲において本体部 1 0 の平面視での周方向に複数の領域に均等に区分けされていてもよい。これにより、複数のマイクロビーズ 1 5 の偏りを防止することができる。内装部 1 3 は、たとえば 8 個の領域に区分けされていてもよい。

40

#### 【 0 0 2 6 】

本体部 1 0 の平面視の直径は、たとえば 4 0 0 mm である。本体部 1 0 の高さは、たとえば 3 0 0 mm である。本体部 1 0 の重量は、たとえば 1 5 0 0 g である。ウレタンチップ 1 4 の平面視の直径は、たとえば 2 5 0 mm である。

#### 【 0 0 2 7 】

図 8 ~ 図 1 3 を参照して、本実施の形態に係るオットマン 1 を用いた運動について説明する。

#### 【 0 0 2 8 】

図 8 および図 9 を参照して、使用者の足指の運動について説明する。この使用者の足指の運動では、親指と人差し指との間にベルト部 2 0 が挟まれる。この使用者の足指の運動では、使用者の足が本体部 1 0 の天面部 T P に載せられ、使用者がベルト部 2 0 を足指で

50

掴んだ状態とベルト部 20 を足指が離れた状態とが繰り返される。図 8 に示されるように、使用者の足が本体部 10 の天面部 TP に載せられた状態で、使用者がベルト部 20 を足指で掴むことにより足指の筋肉が鍛えられる。図 9 に示されるように、使用者の足が本体部 10 の天面部 TP に載せられた状態で、ベルト部 20 を足指が離すことにより足指の筋肉の緊張が緩和される。使用者の足が本体部 10 の天面部 TP に載せられ、使用者がベルト部 20 を足指で掴んだ状態とベルト部 20 を足指が離れた状態とが繰り返されることにより足指の筋肉が鍛えられる。これにより、浮き指を改善することができる。

#### 【0029】

図 10 および図 11 を参照して、使用者の足指の別の運動について説明する。この使用者の足指の別の運動では、親指と人差し指との間にベルト部 20 が挟まれる。この使用者の足指の別の運動では、使用者の足が本体部 10 の天面部 TP に載せられ、使用者がリング部 30 を足指で掴んだ状態でベルト部 20 に沿ってリング部 30 をスライドさせる。図 10 に示されるように、使用者がリング部 30 を足指で掴んだ状態で足を伸ばすことにより、使用者はベルト部 20 に沿ってリング部 30 を前方にスライドさせる。図 11 に示されるように、使用者がリング部 30 を足指で掴んだ状態で足を曲げることにより、使用者はベルト部 20 に沿ってリング部 30 を後方にスライドさせる。このようにして、使用者がリング部 30 を足指で掴んだ状態でベルト部 20 に沿ってリング部 30 を前後にスライドさせることにより足指の筋肉が鍛えられる。これにより、浮き指を改善することができる。

10

#### 【0030】

図 12 および図 13 を参照して、使用者の足の運動について説明する。この使用者の足の運動では、つま先は上を向いている。この使用者の足の運動では、本体部 10 の側面部 SP とベルト部 20 との間に足が通された状態で足が開閉される。図 12 に示されるように、本体部 10 の側面部 SP とベルト部 20 との間に使用者の足が通される。図 13 に示されるように、本体部 10 の側面部 SP とベルト部 20 との間に使用者の足が通された状態で足が外側に広げられる。これにより、使用者の足および尻の筋肉が鍛えられる。具体的には、外転筋を重点的に鍛えることができる。

20

#### 【0031】

次に、本実施の形態に係るオットマン 1 の作用効果について説明する。

靴を履くことにより、立ったり歩いたりする際に足指が曲がり難いため、足指の地面を掴む筋力が低下する。この結果、立ったり歩いたりする際に地面から足指が浮いている状態となる浮き指が生じる。

30

#### 【0032】

本実施の形態に係るオットマン 1 によれば、ベルト部 20 は、本体部 10 の天面部 TP に配置されている。このため、使用者の足が本体部 10 の天面部 TP に載せられた状態で、使用者が足指でベルト部 20 を掴むことにより、足指の筋肉を鍛えることができる。これにより、浮き指を改善することができる。

#### 【0033】

そして、浮き指が改善されることにより体のぐらつきが抑えることができる。この結果、足、膝および腰への負担を軽減することができる。

40

#### 【0034】

また、本実施の形態に係るオットマン 1 では、ベルト部 20 は本体部 10 に取り付けられている。このため、使用者の足が本体部 10 の天面部 TP に載せられた状態で、使用者は足指でベルト部 20 を掴んだり離したりすることが容易となる。

#### 【0035】

また、本実施の形態に係るオットマン 1 では、オットマン 1 によりインテリア性を重視しながら足指の筋肉を鍛えるトレーニングを行うことができる。

#### 【0036】

また、本実施の形態に係るオットマン 1 では、使用者の足が本体部 10 の天面部 TP に載せられることで、足が高い位置に保たれるため、足の血行を促進することができる。こ

50

のため、足の疲れを抑制することができる。さらに、足の疲れを抑制しながら、足指の筋肉を鍛えることができる。

【0037】

本実施の形態に係るオットマン1によれば、リング部30は、ベルト部20に沿って移動可能に構成されている。このため、使用者が足指でベルト部20を掴んだ状態でベルト部20に沿ってリング部30をスライドさせることにより、足指の筋肉を鍛えることができる。これにより、浮き指を改善することができる。

【0038】

本実施の形態に係るオットマン1によれば、ベルト部20は、ベルト部20と側面部SPとの間の間隔を伸縮可能に構成されている。このため、ベルト部20と側面部SPとの間に使用者の足が通された状態で足が外側に広げられることにより、使用者の足および尻の筋肉を鍛えることができる。具体的には、外転筋を重点的に鍛えることができる。

10

【0039】

本実施の形態に係るオットマン1によれば、本体部10の天面部TPは、平面状に構成されている。このため、使用者の足が本体部10の天面部TPに載せられた状態で、使用者は足指でベルト部20を安定して掴んだり離したりすることができる。また、使用者の足が本体部10の天面部TPに載せられた状態で、使用者は足指でリング部30を掴んだ状態でベルト部20に沿ってリング部30を安定してスライドさせることができる。

【0040】

本実施の形態のオットマン1によれば、ベルト部20は本体部10に着脱可能に取り付けられている。このため、ベルト部20を本体部10から取り外すことにより、ベルト部20を洗濯することができる。

20

【0041】

今回開示された実施の形態はすべての点で例示であって制限的なものではないと考えられるべきである。本発明の範囲は上記した説明ではなくて特許請求の範囲によって示され、特許請求の範囲と均等の意味および範囲内でのすべての変更が含まれることを意図される。

【符号の説明】

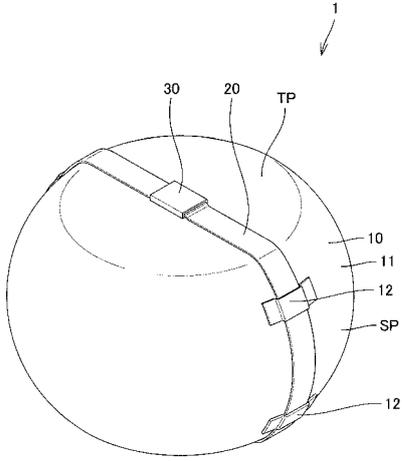
【0042】

1 オットマン、10 本体部、11 外装部、12 ベルト通し部、13 内装部、14 ウレタンチップ、15 マイクロビーズ、20 ベルト部、30 リング部、BP 底面部、SP 側面部、TP 天面部。

30

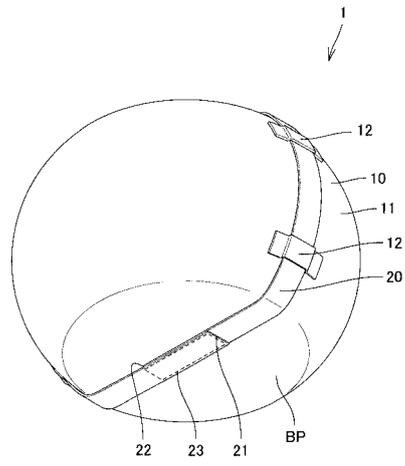
【 図 1 】

図1



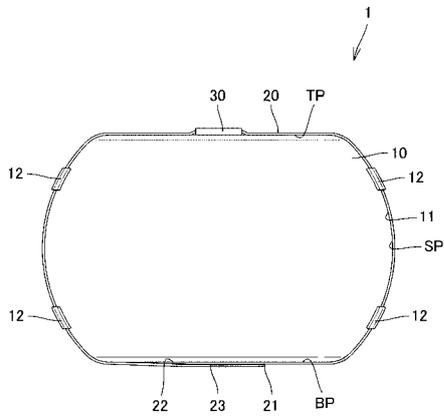
【 図 2 】

図2



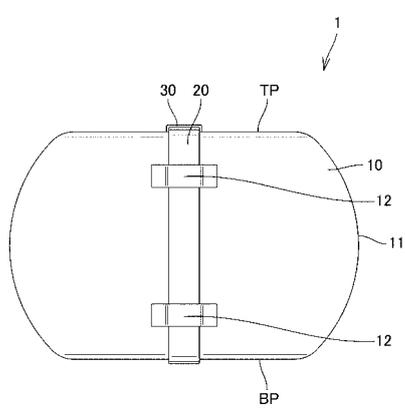
【 図 3 】

図3



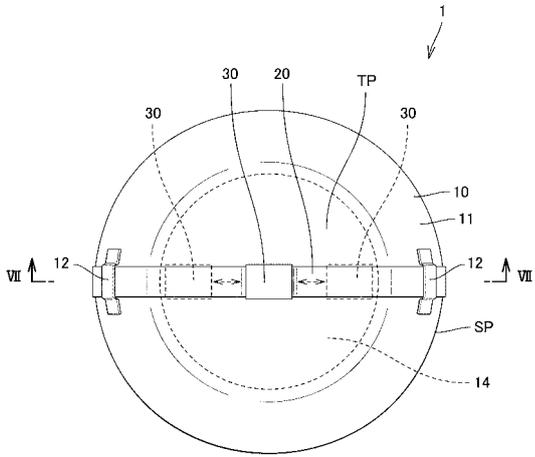
【 図 4 】

図4



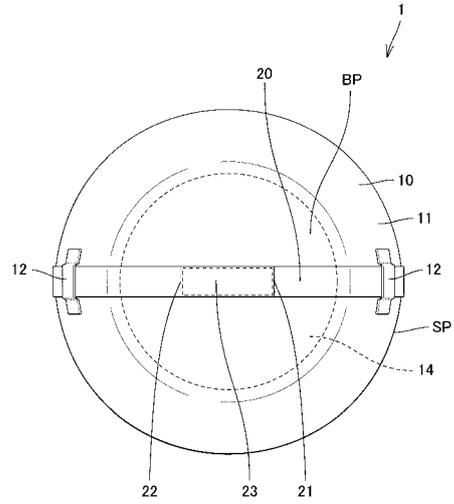
【 図 5 】

図5



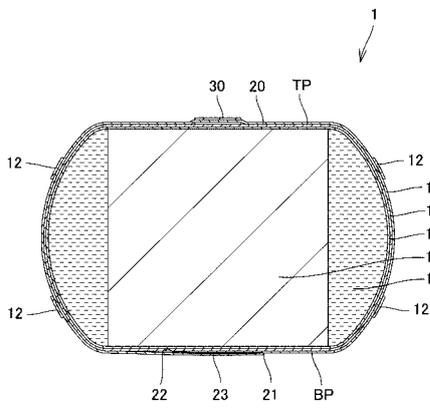
【 図 6 】

図6



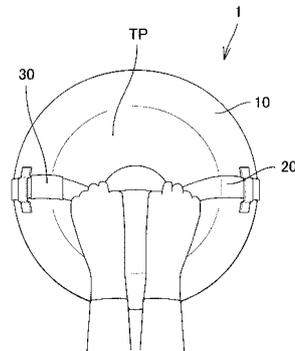
【 図 7 】

図7



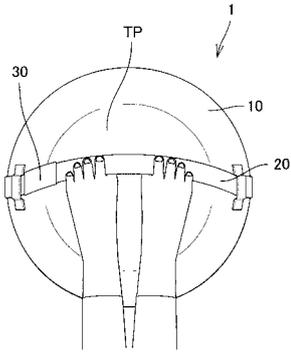
【 図 8 】

図8



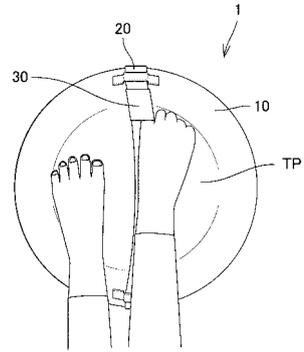
【 図 9 】

図9



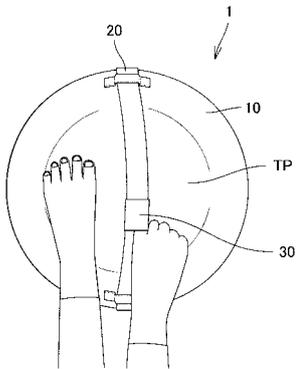
【 図 1 0 】

図10



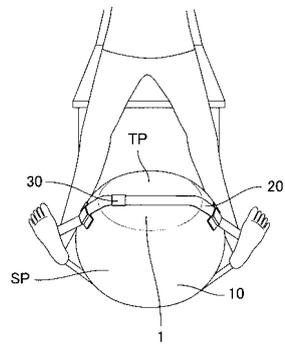
【 図 1 1 】

図11



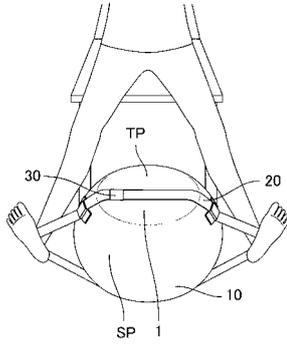
【 図 1 2 】

図12



【 図 13 】

図13



フロントページの続き

- (72)発明者 小長井 星児  
大阪府大阪市住之江区南港北1丁目1番35号 美津濃株式会社内
- (72)発明者 磯野 凌  
大阪府大阪市住之江区南港北1丁目1番35号 美津濃株式会社内